

令和3年度人と自然の博物館協議会協議概要

日時：令和4年3月1日 14:00～15:30

場所：県立人と自然の博物館 大セミナー室

1. 令和3年度ひとはくの活動内容・中期目標の達成状況報告

議長) ただ今、報告事項ということで、活動内容、中期目標の達成状況を報告していただきました。

委員の皆さま、何かご質問、意見等ございましたら。どなたからでも結構です。

委員) 資料1の9ページと10ページを見て文字の大きさがあまりにも違う。同じ報告書の中で全然ちがう文字の大きさがあるのは違和感がある。みなさんが納得されているのか気になる。

今、口頭で報告された内容を書いておいてはどうか。目標に対して達成した、達成しなかったのはわかるが、それに対してどうアプローチしたか。コロナ禍で来られなかったので担当者としても館としても仕方ないと言われた。ある程度減るのは仕方ないということも書いておいたらどうか。資料にないと後々わからなくなる。逆にたくさんできたとか、こちらから行ったとか、それも書いておいたほうがいいのではないか。

博物館) ご指摘のとおり10ページの資料の文字は小さくて読みづらいと思う。次回から文字サイズを大きくするなど資料作りを工夫したい。10ページの状況を文字で表してはどうかというご指摘については、当館では館報を毎年発行しており、その館報に事業内容や中期目標の達成状況を詳しく記載しているので、そのようなかたちで発信していきたい。

委員) 具体的にオンラインセミナーについてよく知らなくて、コロナの影響でオンラインセミナーに力を入れたと言われたが、どういうものをオンラインセミナーにされて、どんな方が来られたかということをお聞きしたい。次年度の活動のところに繋がっていくのかと思うが、人博の持ち味というか重要なリアルなものを、リアルな場があると思うので、それとオンラインをどのように棲み分けているのか、リレイションでやっているのか。もし考え方があれば教えて欲しい。

博物館) オンラインセミナーはいろいろやっているのではなかなか一言で言えないが、それぞれ研究員が専門性を活かしてやっている。オンラインに向いていないものは難しいが、オンラインでできるもの、効果的にできるものはオンライン化して情報発信するようにしている。

来年度以降もコロナ禍の状況下でどうなるかわからないが、オンラインサービスをさらに充実していこうと考えている。

委員) セミナーガイドのセミナーがオンライン化していると考えていいのか。

博物館) セミナーガイドのセミナーは有料でやっていることもありオンラインでやるのはなかなか難しい。セミナーガイドのセミナーは基本的には対面でやっている。

無料で提供できるものはオンラインで提供している状況である。

委員) 利用状況のところで、ビジター数の推移については、コロナ禍で全国どこの博物館美術館も来館者数が減っている。

令和 2 年に入館者が減っているところで、団体が減っているのか、それとも家族連れで来る個人は変わらなかったのか、団体客とその他が減っているのか。団体数がコロナで減ったのか、近所の人はずっと来てくれているのかを知りたいが、表からは読み取れないのでわかるのなら教えて欲しい。

博物館) 団体、特に学校団体の減少が大きい。今年度は緊急事態宣言やまん防が複数回出て、市町教育委員会や学校も慎重になったことで団体の減少が大きい。

委員) アウトリーチ活動がコロナで増えたということだったが、これはコロナに関係なく近年増えていたのか、コロナで特に増えたのか、もう少し詳しく知りたい。

博物館) コロナで特に増えたと言うわけではない。当館はずいぶん前からアウトリーチに力を入れており、近年はエコロコ事業を県の環境政策課と連携してやっていて、その関係でこれまでよりは増えたということはあるが、それはコロナと関係なくやっているもので、コロナの影響という訳ではない。

委員) オンラインでのセミナーとかは他の館でも思いついてされているが、団体が来られなくても博物館が外に出て行けば、学校としては集団で移動しな

くてもいいし密集にならなくていい。オンラインとかではなくてアウトリーチが結構使えるということに気づかされ参考になった。

委員) 学校関係の立場から重点目標の3の達成率が高くなっているのは、背景にコロナの影響があるのかなと思っていたがそうではないと。ニーズがあるからその結果、達成率が高くなっていると思うが、そのニーズの把握、あるいは広報される必要なところだけ情報を届けていく広報の工夫があるのではないかと思う。手続きとか広報を近年何か工夫されているなら教えていただきたい。

また事業の内容として、移動博物館車「ゆめはく」の内容はオーダーに応えられる形なのか、一律の展示なのか。もしオーダーに応えられるようであれば今年度にオーダーがあったものを教えていただきたい。

博物館) 主な事業として、保育園、幼稚園を対象としたエコロコ事業、小学校を対象としたキャラバンがある。エコロコは県・環境政策課から分任されていて年度が始まる前に県内のすべての幼稚園などに募集をかけている。小学校キャラバンは「ひょうご教弘」による費用負担で学校の希望を募っていたので、きめ細かな広報ができていると思う。

オーダーに応えられるかについては、保育園、幼稚園は非常に多いのでこちらで様々なメニューを設定して希望に沿えるようにしている。小学校キャラバンも打ち合わせをしながら、いくつかのメニューから選んでいただくようにしている。

2. 令和4年度の主な事業についての報告・説明

議長) 来年度の人博の主な事業についてご説明いただきました。ご意見とかご要望とかありましたらどうぞ。

委員) 来年度は開館30周年ということであるが、三田市にとっても人と自然の博物館一帯のフラワータウンができて40周年に当たる年。三田市では人博の先生方にご協力をいただき、ニュータウンだけど、オールドタウン化してきているので再生しようと色々やっていた。

この10月、コレクションナリウムができるということで、三田市としてもこの秋にこの周辺でいろんな賑わいを創っていこうと実証実験をおこなうので、ぜひ盛り上げていってほしい。

委員) コレクショナルリウムについて、今まで収蔵庫は奥の院にあったというか、今回は待ちに待った非常に立派なものができる。これから目指すもの、それを利用した何か目標になるもの、また何か違ったものがあるのか。
もう一つは、「えんがわミュージアム」というのがよくわからなかったので教えて欲しい。

博物館) 収蔵庫は従来であれば、非公開の奥まった場所にあるのが通例であったが、今回は場所がそこにしかなかったため、一番まちに近い場所に出来ることになった。目立つ場所に建つので、それを逆手にとって、博物館事業の根幹だがお客様には理解が難しい資料収集の意義と重要性を伝える場所として活用したい。当館の主な来館者は小学校団体だが、新館の展示ギャラリーも小学生にわかる形で資料収集の重要性を伝える場として整備している。

博物館) 「えんがわミュージアム」については、博物館1階には深田公園に直接出られる公園口がある。昔はなかなか使われていなくて、博物館に来た人が深田公園で遊ぶといったことがなかったので、イベントの時にはその公園口を開放して出た所、博物館の橋の下の所にあたる部分に、深田公園にいる昆虫の標本を展示したり、すぐ横の池には生き物がいるので捕まえるためのグッズを貸し出したりとか、広場で遊ぶためのグッズを貸し出ししたりしている。
博物館と深田公園を一体的に使うことを促すような、ちょっとした貸し出しと展示スペースのようなことを計画している。

委員) 収蔵庫については楽しみにしている。来年、テレビで牧野富太郎が取り上げられる。ぼくも植物が好きなので楽しみにしているが、これを利用して、標本を盛り上げる何かがあればと思う。
「えんがわミュージアム」は非常にいい企画だと思う。博物館は興味のある人にはいいが、なかなか参加できない人には、こういうふうなものをやっているという紹介みたいなもので非常にいい企画だと思う。

委員) 学校関係なので、博物館はある特定のテーマのセミナーが非常に大切であると思う。施設としては幅広く展示をするのが基本になるのかなと感じていた。今も小学生が一番利用者として多いという話だったが、小学生は子どもによって何にはまるかわからない。ここにはまるとわかっている子どもはテーマがあるセミナーでいいけど、いろんな小学生が来る場合には多種多様な興味関心があって、そういうのも科学への入口になる。例えば神戸層

群の話でも、かつて兵庫県が世界的に有名な化石の産地だったのがわかるような施設はたぶんここしかない。そういった神戸層群みたいなものになかなか触れる機会がないことからすると、日常の常設展示でもなかなか重点目標になりにくい分野ではあるが力を注いでもらうとありがたい。また開館 30 年と言うことで、そろそろいろいろなところがくたびれてくる頃で、常設展示もセミナーと同様に力を入れてもらうと助かる。結局、ぜんぶやってねという話になるが。ぼくもここに来てこんなテーマの展示があるんだと気づき、非常に興味を持ったので、ぜひこういうものが続いていくようにしてもらいたい。

委員) コレクショナリウムは私もすごく楽しみにしている。

収蔵庫はさつき奥の院という言葉もあったが、ずっと仕舞われていて見せられない。見せられないという理由が博物館にあったと思う。公開するに当たって、なぜ見せられるようになったのか、どうしてこれまで見せられなかったのかということも来た人に何か発信する機会があってもいいのではないか。

博物館の中の人間は「ずっと出しっぱなしにはできないよ」とか、わかっていることではあるが、一般の人が「どうしてずっと仕舞っているの。おかしくない」といった疑問にも答えられるよう何か工夫される予定があるのか。

博物館) コレクショナリウムには、1 階に鳥類、哺乳類の本剥製、2 階部分に植物標本を収蔵する予定になっている。2 階の植物標本についてはフリーで公開という訳にはいかないのですが、そちらは公開できないけれども、これまで数年かけて植物標本 25 万点ほどをデジタル画像化しているので、1 階の展示ギャラリーに植物標本画像検索システムを整備して、ご覧になりたい方は標本画像を見ていただける。2 階にはこれの本物が収蔵されているんだよということが理解していただけるようにする予定である。

鳥類の剥製、哺乳類の剥製を入れる収蔵庫、我々はコレクションギャラリーと呼んでいるが、部屋の 2 面をガラス張りにして建物の中の仕切りをガラス張りにして外から収蔵している環境を見ていただくことを考えている。

東京駅に東大博物館のギャラリーがあるが、もしご存じだったら、そのイメージに近いのではと思っている。

現在の建築技術と空調の設備の進化によって、恒温恒湿環境が担保できるということで今回そんな施設を作るに至っている。

委員) ガラス張りということで、紫外線をカットするような対策が何かあるのか。

博物館) コレクションギャラリーのガラス面 2 面はペアガラスのグレードの高いものを使用し、さらに内側と外側から低反射フィルムを貼り、恒温恒湿環境を保つとともに展示ギャラリーからの視認性を高める工夫をおこなっている。ただ実際には、建物が完成し運用を開始してから、色々試行錯誤をする必要があると思っている。

資料の保全だけを考えれば、これまでのように光が入らない閉鎖的な環境に保存するのが簡単だが、昨今それでは理解を得られにくい状況もあり、せっかくいちばん町から目立つ場所にできるので、あえてそこは見せる収蔵にチャレンジしている。

委員) その辺の苦勞も見えるようにしてもらえると、来た人にもここまですると外に出せるのだとわかってもらえておもしろいかなと思う。

委員) さきほど、令和 3 年度のところで、アウトリーチの話が出てきて、引き続き説明とあったが、こちらの報告ではアウトリーチ活動は 2 行で説明が終わっていて、すごくもったいないなと思っている。

私が先ほど申し上げた立場では、多様な主体とか担い手を含めた発言をするのですが、ずっと丹波地域で活動してきて、但馬でも知り合いが活動しているが、担い手や多様な主体の質がだいぶ変わってきた。こちらが支援してあげたりとか、守らせていただくのではなく、もう全然やっちゃっている方というか、個人的にすごく楽しんで自然とともに生業を作り出したり、暮らしをしたりする人が増えているなと思っている。

例えば但馬だったら、土地を買って山を開いてキャンプ場を開くとか、ゲストハウスをやりながら冬に鹿とか捕る人もいたりとかするので、そういう人たちが担い手になったりするようなイメージも含めてアウトリーチを展開していただきたい希望もある。すごくいい科学反応が起きるのかなと思うので、いわゆる自然史博物館の担い手といったときの、自然を保護しようとか環境を守ろうとはちょっと違う担い手になるのかなと思った。

もうひとつは、地域で活動していると色々な方々を取りこぼしてしまうインクルーシブの視点があって、やればやるほどこの人たちに届けられないという歯がゆさを感じることもある。そういう時こそ、このような社会教育施設だからこそ採算度外視でできるのかなと、どうしてもできなかった人に届けられるような使命や役割がすごくあると思うので、そういったことをもしお考えでしたら教えて欲しい。もしチャレンジャブルなことができれば楽しい、嬉しいというか、地域にとって嬉しいことかなと思う。

博物館) アウトリーチの対応と担い手については、いろんな活動をしていて、色々なことをしたい方々がいらっしゃる。活動を 20 周年の時から博物館だけで 550 万県民にサービスを提供することはもう無理というかおこがましいという考えがある。パートナーを増やしていき、やりたいことをやりたい人がやりたい地域で博物館のようなサービス(活動)を広げていくために、担い手養成を重視してきた。

例えば、教職員セミナーもやってきたが、従来は教職員の方だけに学校でこういったことをやるというノウハウを教えるということだったが、今は教職員・指導者養成ということで、NPO その他地域で色々な活動をする方々も館員のノウハウを学べるセミナーをして、我々の仲間を増やそうとしている。

エコロコ事業においても、館員が園に出かける(出前)事業、取り組みの入口にあるようなちょっとお話をしにいくような事業、県立公園などに遠足に行く事業など、こちらについても園の先生方に研修をすることをやっていて、これからも色々な担い手養成にチャレンジしたい。

インクルーシブについても、色々なバリアフリーの考え方を博物館としては取り入れたいと考えている。あわせて、こういった担い手を広げていくのも一つのインクルーシブかなと。一つのサービスにおいて参加することもできるが、社会全体で支えていくことで、いろんな子どもたち、いろんな方々が参画できるいろんな機会において、いろんな方々が配慮することで達成できるものと考えている。こういった担い手養成事業を通して、様々なインクルーシブの機会を提供したいと、大きな方向性としては考えている。

委員) コレクショナルリウムにはフリーで入ってもいいのか。

博物館) 一階部分に関してはだれでも開館時間内であれば入ることができる。

委員) 今年は無理そうだが小学校、中学校の理科の作品展をやってもらえると入ってくる人は増えるのかなと思う。

博物館) 理科作品展は例年博物館の本館 4 階ひとはくサロンで開催しているが、来年度以降の開催場所についてはまた検討したい。

委員) 中学校の先生や会社の上司がいい人で仮説を立てて検証していくことを教えてもらった。私自身開発部で働いたので、親の学習への関心とは関係な

く、学校の先生にもお願いしたいのだけど、これだけいい施設があるので、そこでも好きな子どもが来て色々自由に見る場をもっと提供していただけたらなと思っている。

議長) 私からも関連して一点。コレクションナリウムにはみなさんがとても関心をもっておられるようだが、中期目標の1番目に「演示手法」ということで、あらゆる世代の知的好奇心を刺激するというのがあった。4ページにある挿絵みたいに演示手法を取り入れて何か取り組むというアイデアがあると理解していいのか。

博物館) 4頁のスペシャルイベントにある「標本のミカタ」は、まさに挿絵に近い形で、半日程度、標本をオープンなスペースに出し、研究員が随時解説を行うイベントである。永続的に展示として表に出し続けるのは難しい標本を、1日だけ研究員が張りついてお出しし「これはこういうコレクションの標本なんですよ」という解説を来館者に行う。11月はノミの研究で知られ、ひとはく設立のきっかけになった阪口博士のコレクション、12月は鳥類、2月は新収蔵庫設立のきっかけになった頌栄短大寄贈の植物標本をお見せする。コレクションナリウムという建物の名前の通り、資料があつて研究員がいて、資料の解説をする。という場として展示ギャラリーを活用していきたいと思っている。

委員) 来年度のセミナー事業で、「論文って面白い！科学論文の読み方入門講座」というかつてないようなセミナーが企画されている。対象は小学生以上になっていたと思うが非常に有益というか、これから必要だと感じた。

委員) 同じ博物館から見ると人博の協議会というのは資料的に一番整理されていると思う。ある意味、博物館法に書かれてあることを一番忠実にされているし、チェックされる指標を重点項目に決めて、非常によく整理されている。今日、みなさんからご質問が出ているように非常にわかりやすい資料なので興味を持つ素材だと思っている。

人と自然の博物館ということ考えた時に、「人と自然」というのは私たちがやっている日本の歴史なんていうのはたかだか3千年だが、「人と自然」というのは億。億というおおきな枠の中で営まれている世界。我々が直面しているコロナという病原体、人と自然の長い歴史の中で21世紀に出てきたものだ。

日々、我々が考えつかないような人と自然のおおきな接点のようなものが

今、地球上でどうしているかを発信していただきたい。

特に人博の場合、研究員がおられるので、研究員の総合力でそういうことを発信していくのも、私は人博にしかできない役割だと思っている。そういうことを考えたときに、コロナウイルスは2019年の暮れに中国で発見されたということだが、ウイルスを運んでいるのはコウモリではないかと言われていて、いわば何かの動物が介在しているのではないかと思う。そういうことを考えた時にこの前、協議会に出たときに印象に残っているのはヒアリの事件が起こった時だった。コンテナの中に隠れていて、中国や欧米から入って来る。その中にヒアリが生息しているということを入博の研究員が見事に突き止められた。人博の日頃やっておられる地道なこと、研究がいかほど重要であるかをその時にわかった。人博というとももちろんキャラバンもあるが、ヒアリの事件がとても印象に残っている。

こういうことも、普段、皆さん、あまり関心を持たないかも知れないが歴史の中で、大きな人と自然の関わり方がトピックになった時には、人博が頑張っていた出番ではないかと思う。この長いスパンの中で人博が貢献された事柄が単年度の資料の中に盛り込まれていないので、別途、長いスパンの中で人博がどういう活動をしたかということも提起していただいて、それも時々協議して思い出していただいて評価の基準に入れていただけたらと思っている。

私たちも毎年毎年こういうことをやっているけれども、人博が対象にされている時間の流れの大きさというのは、途轍もないものがあると思う。そういうことについて教えていただいたり、あるいは議論の材料を提供していただいているのも人博の大きな役割である。

委員) 次年度の計画ということでどれも非常に楽しみだなと拝見した。人と自然の共生といったところが人博の大きな特徴かなと思うので、次世代の育成、特に若い世代の育成が重要になってくる。我々のような地域の事業者も仲間に入れていただいて、SDGs みたいなことに繋がってくるのかなと思う。事業者も自分たちの事業に関わるのところからどんどん取り組みを進めようとしているが人博のたくさんの先生、いろんな知見をもたれた先生といっしょに活動できるようになればいいなと思っている。先生方にはお忙しくなってしまうと思うが、プログラムやコンテンツを考えていただけたらうれしい。

委員) 今年度もコロナ禍の大変な状況の中で様々な活動を実施されている。

私も勤務校の中で自己評価をするが、今日、報告いただいた資料では具体的

な目標を立てられ、重点目標とか具体的な数値目標を可視化されているということで非常にわかりやすい資料だなと思った。

私は専門が幼児教育、保育で、アウトリーチ事業にも非常に興味があるが、地域展開度を来年度100%にしたいという言葉もいただいた。ぜひその実現を期待したい。

委員) 学校教育の立場からお願いでもあり、学校の課題についてでもあるが、最初に子どもたちが成長していく上で、実際に実物に触れる体験が欠かせないものである。その中での感動体験、実感を伴った学びが子どもたちの成長に重要である。

この2年間、なかなかその部分がままならない状況が続いている。この施設の利用の多くを小学生が占めているという話があったが、兵庫県の場合は体験教育として小学校3年生が年間3日間に渡って校外でのフィールドワーク等を行うことになっている。その中でこの施設を利用していた学校が多かったのではないか。

また小学校5年生では4泊5日を基本とする宿泊体験、自然体験を行うということが大きな教育の中で重要な部分を占めている。

子どもたちにとっても欠かせない一生忘れられない体験になるが、この2年間コロナ禍の中で、本来ならば様々な野外体験活動施設あるいは環境体験ができる施設を予約し、バス移動の計画も立てて年度初めは臨むが先が見通せない中、ほとんどの事業が計画通りに行えなくなっている。

本校においても自然学校については泊を伴わない2日間のバス移動での野外活動施設訪問と、あと3日は校区内でそれに代わる行事を行うことになっている。そういう中でアウトリーチの話もあったが非常に可能性が高いものだというふうに考えている。

子どもたちにとっては本物に触れる体験、感動体験をなかなか学校だけでは提供できない。博物館が持っている資源あるいはノウハウ、専門的な研究成果等を活用していただくことで学校教育を助けていただけないかと思っている。

先ほど申し上げたが、年度当初は計画をしているが年度途中でその計画を変更しないとイケない。教育課程の変更を余儀なくされる中であって柔軟な申し込みや柔軟な対応をしていただけるようであれば学校は非常に助かる。

またバス等で遠くへ出向いて行くような校外学習がなかなかできない中であって、阪神地区の学校もフィールドを地元を求めるようになっており、改めて地元の良さを認識することができた。

本校の校外学習では、今は地域の方が指導していただいて、子どもたちが環境体験しているが、それも高齢化が進んで次の指導者がなかなか見つからない。フィールドはあるが指導者がいないという点が学校の課題となっている。自然観察における指導者の派遣等についても人博が蓄積されてきたものを提供していただければ先が見通せない学校教育の中で助かる。

委員) 資料の1ページに新たな将来ビジョン作成というところがある。今の段階でどのような思いをもっているのかという点と、子どもたちの意見を取り上げるといえるが、どのようなかたちで行われるのか。わかる範囲で教えていただきたい。

博物館) 先ほど、ご指摘があったアウトリーチ活動や子どもたちに感動や本物の自然と触れる機会を提供するとか、そのようなことを将来ビジョンに盛り込んでいこうと今まとめているところである。館内で議論しているところで、まだしっかりした案はできていないが、素案ができ次第、検討委員会を開催する方針である。

子どもや若者からどうやって意見を聞くかについては、まだ考えていなく今悩んでいるところだが、例えば、三田市内やフラワータウンの子どもたちを当館に招いて意見を聞くとか、あるいは当館とつながりのある若い人がたくさんいるのでそういう人からも話を聞いたり、ご意見をいただいたりすればいいかなと考えているところである。

議長) 委員の皆様からいろいろなコメントをいただいた。

新しい収蔵庫ができて、ますます研究員の皆さんは忙しくなると思うが周囲の期待にぜひ前向きに頑張っていただきたい。

新しい収蔵庫の活用ということでは研究員に相当の負担が掛かってくるのではないかと思う。新しい収蔵庫を活用するためのマンパワーの確保とそのための方針措置を県の方でお願いしたいと思う。